



梅花新聞【香里】  
第50号

題字 管長 南澤道人 禅師  
発行 者 服部 秀世  
発行 所 曹洞宗 宗務 庁  
企画 編集 伝道部 詠道課

お誓い

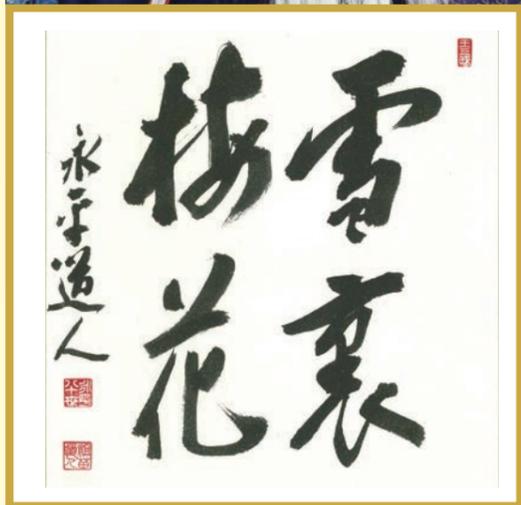
- ・私達は梅花流詠讃歌を通して、正しい信仰に生きます。
- ・私達は梅花流詠讃歌を通して、仲よい生活をいたします。
- ・私達は梅花流詠讃歌を通して、明るい世の中をつくりまします。

ごあいさつ

曹洞宗 管長  
大本山永平寺貫首 南澤道人

甲辰の新年、梅花流詠讃歌のお稽古に勤しまれる皆さまには、清々しいお心持ちでいらつしやることとお慶びを申し上げます。また、新年が皆さまにとって掛け替えのない年となりますよう祈念申し上げます。

さて、年頭の一語として認めました色紙は「雪裏梅花」です。この禅語は、道元禅師のお師匠さま天童如浄禅師が、釈尊の成道を讃えて詠まれた偈「瞿曇の眼睛打失の時、雪裏の梅花只一枝」が出典です。「お釈迦様がお覚りを開かれると、迷妄の眼は消



稽古が自分に所作をさせてくれる瞬間がある筈です。その時のあなたが味わう感覚が「雪裏の梅花只一枝」でありましょう。

合掌

え失せ、真つ白な雪の中に真つ白な花を咲かせた梅の一枝のように微塵の汚れもない清浄なる世界が啓けていた」との意です。

元旦の清々しさにも通じます禅語であります。皆さんのお稽古にも通じると思っております。お唱えに専念し、鈴の振り方や鉦を打つ撞木の所作に全神経を注いでのお稽古。お唱えにしても、鈴や撞木の所作も、ご指導頂いた通りには中々行きますまい。それでも、我を忘れてお稽古に励まれる。すると、自分がお稽古するのではなく、お

檀信徒講習会、対面で四年ぶりに開催

令和五年九月十五日と十一月十日、宗務庁において四年ぶりに、檀信徒講習会が行なわれた。全国各地から希望者が集まり、講師の指導の下、梅花流の研鑽を積んだ。

講習会は、島根県明元寺森山祐光師範が主任講師を務めた。新型コロナウイルスの影響で、以前ほどの申し込みはなかったが、一堂に集まり、講師から対面で学べる機会とあって、参加者からは喜びの声が多かった。

また、全国各地から集まった人々と交流し、ともに唱えする貴重な機会でもある。四年ぶりであるため、参加者の中には、久しぶりにお会いした方もいたのではないだろうか。両日ともに、とても充実した時間になったに違いない。

宗務庁講習会の開催情報は曹洞宗報や禅ネット等に掲載するので、興味のある方は積極的にご参加いただきたい。



宗務庁講習会 全体講習の様子



四年ぶりに大勢での檀信徒講習会



# 太祖常済大師 瑩山禪師讃仰 御詠歌(法灯)



第24期梅花流師範養成所主任講師  
宮崎県法明寺住職  
久峯 章稔

今年、太祖常済大師瑩山禪師(以下「太祖様」と称す)の七百回大遠忌本法要(四月一日〜二日)の年となります。したがって、この度は、「法灯(太祖様)」をお勉強したいと思います。

太祖様は、『慈悲の聖者』という生き方を、生涯全うされたことに、その御教えがあらわされます。それは、母懐観大姉様が「観音様に、太祖様の修行が円満に成就することを祈念する」お覚しの御姿として、心に浮かんだことによります。以来、さらに修行に励まれ、慈悲に満ち柔和な心をお持ちになり、「迷い苦しんでいる人々を救い、悟りの境地に導く(衆生救済)」というお誓いをたてられ、「四つの無量心(四無量心)」を人々に施されました。

- 一、心に安穩をもたらす、慈無量心。
- 二、心の苦しみや不安を除く、悲無量心。
- 三、人々の幸せを自分の喜びとする、喜無量心。
- 四、人を憎む事なく、相手を区別せず、平等に応える、捨無量心。

慈悲心は「人々を悟りに導くために起こす、四つの無量心(四無量心)」から、成り立っています。さらに、女性救済をとかれ、太祖様の慈悲行は坐禅や衆生救済の精進を支えているのです。

ご詠歌にとって大切なものは、信心を培うことです。それは、お唱えを聴いた方が「上手い」と思うのではなく「ありがたい」と思うので心がかげ、私たちが熱中しがちな「声」や「節回し」ばかりに、気をとらわれないということ。聞き手としての勉強も大切で、「粗探し」ではなく、「個性を味わう」心のゆとりをもち、「唱え手の心」を聞き取ることを心がけなければなりません。

「法灯(太祖様)」の曲想は「莊嚴に」となっています。莊嚴とは「厳かにきちんと整え、敬意をあらうこと」をさします。今もなお太祖様の御教えの光が、燦々と遍く私たちを照らし続けている事に、「感謝の気持ち」を大切に心に持ち続け、お唱えに励みたいものです。

◆一行目「とーこー」は、打鉦の

連続となります。発声と打鉦が同時にできるようにお気を付けてください。「と」「こ」等の歌詞の言葉が、打鉦が強すぎると、消されてしまいます。優しい発声・優しい打鉦が望ましいと思われまます。

◆一行目「こー」の一拍ずつの部分は、「打ち返し」の所作を応用して、撞木をつかずに打鉦を行ないます。

◆一行目と二行目の「ナヤシ」については、概ね一拍間で行ないますが、優しく発声して、徐々に一音半ほど下行させながら、弱音にして終わるよう、ご研鑽いただきたく存じます。

◆一行目「ひとを」の「と」のソ音が上ずりやすいので、お気を付けてください。「ひ」の二拍目のソ音を弱で終わると、ソ音がとりやすくなります。「と」の符割りには「2・2」拍で上行音(前音より後音が低い)です。後音を弱く発声するとよいと思えます。「を」の所は一拍が短くなりや

太祖常済大師瑩山禪師讃仰御詠歌(法灯)

拍速四二位

頭 莊嚴に

とーこー とわに ひとを

はよ をてら すなり

◆二行目の「わたして」の「て」の符割りは「2・2」拍で下行音(前音より後音が低い)です。後音は自然に弱くなります。後音を押しさえてしまうと、音が下がりますのでお気を付けてください。

◆「ぜんじのじひは」の「ぜんじ」の部分は、「ソ音・一拍」の連続です。同じ強さでお唱えをしようと、単調なお唱えとなってしまうので、強弱でメリハリを付けると宜しいのではと思います。

◆三行目「よをてらすなり」の「よ」の三拍目と「て」の三拍目の符割り「3・1」拍の「3」の拍が延びやすいので、お気を付けてください。

# 雪竇山資聖禪寺に拝登して

秋田県 禅林寺住職

山中 律雄

二〇二三年十一月二〇日、中国浙江省 杭州市の雪竇山資聖禪寺に拝登し、新しく建設された「弥勒聖壇」の開幕式である「梵唄交響合唱音楽会」を鑑賞して来ました。また翌二二日には、資聖禪寺内において御詠歌の普及に携る監院老師、詠讃歌を学ぶ学僧、信者らと交流会を行いました。

交流会の冒頭に、資聖禪寺より作曲依頼のあった「弥勒菩薩御和讃」が、梅花流師範により披露され、その後、中国の信者らによる「三宝御和讃」の



合唱音楽会の様子

お唱えがあり、それに応える形で梅花流師範の「正法御和讃」がお唱えされました。中国の信者の方々のお唱えは、唱えること自体が喜びである、詠讃歌本来の魅力にあふれ、聴く者の心に強く響くものでした。

二〇一九年、熊本にて行なわれた梅花流全国奉詠大会以後、コロナ禍にあつて閉ざされていた交流の再開が叶ったのは意義深いことであり、これをきっかけに、ふたたび相互の交流が深まっていくことを願うばかりです。



交流会の様子

## 合唱レッスン

## コンサート&練習会始まる!

昨年の梅花流全国奉詠大会において清興を務めた平林 龍さん、北野里沙さんのコンサートが案内されている。ピアノやヴァイオリンの演奏とともに、大会で行なったコンサートを、全国各地の奉詠大会や寺院梅花講のイベントで体験できることがコンセプト。参加者も楽しみながら歌うことができる。プログラムは柔軟に決めることができるとのことなので、お気軽にお問い合わせください。



北野 里沙さん



平林 龍さん

また、平林さんの梅花流詠讃歌練習会も、一月から東京池袋でスタートした。練習会は月に二回、発声練習やピアノを使った二部合唱等が行なわれ、月ごとに練習する曲が変わる。詠讃歌に関心があるなら、どなたでも参加可能だ。普段とはまた違った雰囲気のもとで詠讃歌を歌うのも楽しく、新しい発見もあるだろう。

### コンサート料金表

プラン	平林・北野+ピアノ伴奏+α	平林・北野 (伴奏兼歌唱指導)	平林単独プラン
内容	全国大会と同じフルバージョン	簡易バージョン	コンパクトバージョン
金額	200,000円~	100,000~200,000円	50,000円~
備考	ピアノ伴奏のみ可	公演時間、内容で変動有	機材により料金変動

### 練習会料金表

月謝	7,000円 (1回 3,500円)
時間	13:00~14:30 (月2回)
会場	東京都豊島区南池袋 1-26-9 第2MYTビル 8階 ミュージックスタジオ・フォルテ 8階 「オクターヴハウス」イベントスタジオ
お問合せ	Mail: info@arias.jp Tel: 080-4384-2399



コンサートのお問い合わせはこちら



練習会のお問い合わせはこちら

第25回  
スマイルアゲイン

自然災害の被災地支援を掲げ「歌声で捧げよう祈り届けようまごころ」をテーマに有志が開催している「スマイルアゲイン梅花のつどい」が令和五年十月六日、長野県埴科郡の満泉寺で開催された。

十月に入ったばかりの澄み切った空のもと、長野県満泉寺に103名が各地から集い、盛大に開催された。

午前中は、スマイルアゲイン代表の北野良昭正伝師範による「太祖常済大師瑩山禅師影向御和讃」「太祖常済大師瑩山禅師影向第一番御詠歌（伝光）」の全体講習が行なわれた。次々が太祖常済大師瑩山禅師の七〇〇回大遠忌にあたるため、一日を通して、瑩山禅師の御詠歌が主な課題曲となった。北野師範を始め、各地から集まった師範の講習に於いても、笑い声が絶えず、参加した講師の方々和やかに日程が進んだ。

本堂の前での記念撮影をはさんで午後の講習が終わると、満泉寺住職齋藤智是老師を導師に、自然災害被害物故者追悼法要が厳修され、参加した講師全員で祈りをささげた。

閉会式では、講師全員が立ち上がり、「まごころに生きる」等を歌った。参加者全員が

楽しみ、思いが一つとなった、温かいつどいとなった。

また、今回のスマイルアゲインには海外からの方も参加され、「皆さんと一緒に唱えることができて感動した。皆さんとても楽しそうだった。」と感想を述べた。

参加協力費等から昼食代等を差し引いた、三五万四三〇円が曹洞宗義援金に託された。これにより、道心利行のスマイルアゲイン梅花のつどいより寄託された累計は千二百万円以上となった。尊い浄財は、被災地復興支援のために役立てられる。



本堂前で全員でお唱え

梅花妙楽

都内の寺院を訪れると、境内で猫を見かけることが多い。大半は地域猫だと思いが、東京に於いても、寺院等の自然がある場所でも、多くの猫が暮らしている。気持ちよさそうに日向ぼっこをしている光景を見ると、いつも心が和むものだ。

猫と日本人との繋がりは古く、弥生時代まで遡るといいます。我々僧侶とも縁はあり、奈良・平安時代には、帰国する遣唐使船に積まれた経典を鼠害から守るため、猫を船に乗せていたともいわれている。現代まで伝わる日本の仏教に、一役買っていたといっても過言ではないのかもしれない。

筆者の寺にも猫がいる。一般的な猫にもれず自由気ままに、時には本堂に上がり寛ぐなど好き放題だ。流石に本堂に上がるのはやめてくれと言ったところどこ吹く風、畳の上で日向ぼっこしている。本当に先祖が経典を守っていたのか、甚だ怪しくなる。

僧侶があちこちを走り回るように慌ただしい年の瀬、師走。飼い主が走り回るのを尻目に、猫は常と変わらず自由に振舞う。手を貸してくれと言っても無理な話だが、いつ何時でも動じずに日々を過ごすところは見習いたいものだ。何者にも邪魔されず一日中日向ぼっこ…も見習いたい、それは心に秘めておくこととする。(詠道課)

訂正・お詫び

「太祖常済大師瑩山禅師影向御和讃―二部合唱梅花符譜面」に誤りがありました。謹んでお詫び申し上げます。頭句の最後の拍

誤 Y 正 Y

曹洞宗梅花流  
梅花法具のお求めは  
曹洞宗ブックセンターへ

梅花法具・梅花服・梅花トレーナーなどの梅花に関するお品物は……曹洞宗ブックセンターでお取り扱いしています

ご注文は…曹洞宗ブックセンターまで  
0120-498-971  
FAX 03-3768-3561 (平日 9:00 ~ 17:00)

